

2017年2月号

2月15日(水)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 245



凍てつく湿原…

「雪が降る日は暖かい」というのがこの地域の常識です。雲一つない日は、むしろ放射冷却によって熱が逃げ、凍えるような気温になります。そんな日の朝に木道を歩いてみると、ピーン…と張り詰めた空気。雪と氷に閉ざされ、時間が止まったような風景が広がります。

それでも少しずつ、真冬が過ぎ去りつつある温根内です。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【キタキツネの足跡】
 イヌ科 北狐
 指の肉球が4つ見られるのが特徴です。湿原内でよく見かけ、頻りに獲物を探し回っているのがわかります。



【ネズミ類の足跡】
 ネズミ類の足跡は二つ並んだ小さな足跡が点々と続き、他の動物と識別できます。柔らかい新雪のときは、足跡の間に尻尾を引きずった跡も見られる場合も。



【エゾユキウサギの食痕】
 ウサギ科 蝦夷雪兎
 足跡をたどっていくと、倒れたヤナギの木の上面だけがめくれています。その近くには糞(矢印)が落ちていることもあります。



【エゾシカの食痕】
 蝦夷鹿 シカ科
 ミズゴケ湿原などに雪を掘り返して下の草を食べている痕跡が見つかります。山側ではササを同じように掘り出して食べています。



【イヌコリヤナギ(冬芽)】
 ヤナギ科 犬行李柳
 鶴居軌道沿いなどに生えるヤナギの一種です。葉が対生しているのが特徴で、冬芽でもすぐに見分けることができます。



【ウメノキゴケの仲間】
 ウメノキゴケ科
 ハンノキの幹に黄緑色のコケ状の物体が付着していることがあります。環境がよい所にしか生育しない、地衣類の仲間です。

○表紙の写真 上:ミズゴケ湿原 中右:ハンノキの霧氷 中左:フロストフラワー 下:オオアカゲラ

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

温根内周辺では、留鳥のカラ類やエナガは元気に飛び回り、冬鳥ではマヒワがよく上空を飛んでいます。少しずつ春が近づきつつありますが、まだまだ気温は低いので野鳥観察の際には防寒対策をお忘れなく。ビジターセンターではスノーシューと双眼鏡を無料で貸し出しております。



【エナガ】 留鳥
エナガ科 柄長
「雪の妖精」とも呼ばれ、雪がよく似合う人気の鳥ですが、1年中北海道で見られます。道内のエナガは亜種シマエナガです。



【オオアカゲラ】 留鳥
キツツキ科 大赤啄木鳥
ハンノキ林に時々現れます。腹部に縦縞模様があるのが特徴です。写真の個体は頭頂部が赤くないので、メスと思われます。



【セグロセキレイ】 夏鳥
(一部越冬) セキレイ科
昨年の秋から鶴居軌道の湧水地に居ついでいますが、いつの間にか2羽に増えていました。このまま越冬するのかもしれませんが。



【キバシリ】 留鳥
キバシリ科 木走
「シリリ・・・」と鳴きながら幹を上っていきます。背中の色は樹皮と見事な保護色を呈しており、意外に見つけるのが難しい鳥です。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥(1月15日～2月14日) ※和名は日本鳥類目録第7版の順

■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■フクロウ■コゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■モズ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ワタリガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■セグロセキレイ■アトリ■マヒワ■ベニヒワ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆コラム 新人指導員奮闘記② ふれあい編～☆☆☆☆

温根内ビジターセンター 指導員 藤原伸也

ビジターセンターには、毎日のようにいろいろなお客さんが来て、いろいろな質問を受けます。実はこのお客さんとの触れ合いの中で勉強させてもらうことが非常に多いです。中にはこちらが思ってもみなかった疑問をお持ちの方もいて、急いでその場で調べるような時もあります。このような、次々とやってくる初対面の人たちと言葉を交わす、という体験も、ビジネスマンだった私にはとても新鮮でした。

さて、お客さんとの会話の中で頻りに聞かれるのは、「タンチョウはどこに行くと見られますか？」という質問です。温根内周辺にもタンチョウは棲んでいて、姿を見られる大体のポイントも示すことはできます。しかしながら、野生動物なので、「必ずそこに行くと見られる」という約束はできないため、返答に少し悩んでしまうところでした。これはタンチョウに限った話でなく、他



の動物についても当てはまりますね。

また、ビジターセンターには、釧路湿原のパークボランティアの方々もよく顔を見せに来てくれます。このボランティアの方たちには、行事のお手伝いや木道の清掃をしてもらったりと、我々指導員にとっては大変心強く、欠かせない存在です。

何より、交流がとても楽しいですし、湿原周辺の生の情報がいろいろと聞けるのもありがたいです。北海道の自然は非常に豊かで複雑なので、指導員だけで見聞きできることは限られています。

そこを「この前、あそこであんなのを見たよ!」と、お話を持ち掛けてきてくれる存在はとても貴重です。そして、何気ない会話が結構重要だったりもします。

こういった、ごく一般の方々との触れ合いや情報交換は、通常の仕事勤めで培う人間関係とはかなり違う「穏やかな手触り」を日々感じさせてくれます。



☆☆☆☆仮設ビジターセンターが移動しました☆☆☆☆

ビジターセンター（VC）の建て替えに伴い、運営を昨年6月から仮設のVCで行っております。新VCの建設は着々と進んでいるところですが、今まで仮設VCが建っていた箇所に対し外構工事を行うため、仮設VCを移動しました。移動場所は建設中の新VCのすぐ隣、小回りコースの終点（木道番号155番）付近です。開館時間はこれまでどおり、10時～16時となっております。新しい仮設VCの位置は、以下の図を参照ください。なお、仮設VCまでの道は、



新VCの工事現場の脇を通ることになります。仮設VCにお越しの際は、現場の案内に従って進んでいただき、工事車両等にご注意ください。



分岐点に案内板があります



現在の仮設VC



建設中の新VCが見られます

☆☆☆☆自然ふれあい行事が開催されました☆☆☆☆



○「厳冬の湿原ハイク」1月15日 参加者：13名

湿原に棲む動物たちが残した痕跡を観察するイベントを行いました。講師の貞國氏（釧路市立博物館）から、まず痕跡探しのポイントを室内で説明いただき、その後全員で外に出て探索を開始しました。早速エゾキウサギの足跡を見つけ、一同は貞國氏の解説に耳を傾けていました。その後もキタキツネなどの足跡を観察したほか、エゾシカの角研ぎの痕跡や、エゾキウサギの食痕も見つけることができました。天候にも恵まれ、参加者は冬の湿原を楽しめた様子でした。



○「スノーシューで湿原ハイク」2月12日 参加者：11名

スノーシューを使って湿原周辺の森を楽しむ観察会を行いました。最初にスノーシューの練習をし、慣れてきたら釧路湿原を見渡せる丘の上まで登りました。丘の上ではエゾシカやキタキツネ、エゾキウサギの足跡や糞、食痕などが観察できました。イヌナギスの足跡や猛禽類が餌を探した跡など珍しい痕跡も見つかり、姿は見えないが様々な痕跡から生き物の行動に想像を膨らませました。参加者たちも冬ならではの湿原の楽しみ方を満喫したようでした。（講師：本藤泰朗）

☆☆☆☆イベントのご案内（3月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪釧路湿原フィールドウォッチング

〔日時〕3月4日（土）10：00～12：00〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕シラルト口湖・蝶の森周辺

（集合は憩の家茅沼駐車場）

～ハシブトガラが囀り始めました～

天気の良い日にはハシブトガラの囀りが聞かれるようになりました。今シーズンは冬の訪れが早かった分、去るのも早いのでしょうか…？



月刊 温根内通信 No.245

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：10:00～16:00(4月～10月は17:00まで)

休館日：毎週火曜日(12/29～1/3は休館) 入館無料